

〜The Great Luck 音声 11〜

こんにちは。佐藤文昭です。それでは今から音声を収録していききたいと思います。今日の音声はですね、結構よくいただく質問なんですけど、パートナーさんとか相手の気持ちが理解できないというお話であつたりとか、旦那さんであつたり、奥さんだつたりとか、親友とか、あとは家族、身内とかね、そういう相手の行動で理解ができない部分があることで、そこにイライラしてしまうっていうご質問、ご相談というのが結構多いので、今日はそのあたりをお話ししてみたいと思います。

どこからお話ししようかなと思つたんですけども。まず例えば、生まれたばかりの赤ちゃんつていうのは夜泣きしますよね。夜泣きするときに、奥さんがあやすわけですよ。じゃあ、旦那さんはどうなのかって言ったら、かなりの確率で寝ている、そのまま寝ちゃっていることつて多くないですかね。その姿を見て、奥さんが「どうしてこんなに赤ちゃん

が泣いているのに起きないの?」「こんなに泣いているのに、どんな耳をしているの?」「なんでこんな声も聞こえないの?」っていうふうに思うこともあると思うんですよね。

「認識」 していないことは見えない・聞こえない

なので、今日はそこを紐解くお話をしていきたいなと思うんですけども、実はこれの結論を言うと、聞こえていないんですね。実際には聞こえてない。それはどういうことかっていうと、脳の仕組みから来ているんですね。その赤ちゃんの泣き声が聞こえていないっていうのが、本当に脳の仕組みからそこに到達しているんですけども、なぜかって言うと、脳みそっていうのは、かなりのエネルギーを浪費するっていうお話を聞いたことがあると思うんです。

脳みそを実際は3%とか、本当に数%しか使っていないっていうのはどこかで聞いたことがあると思うんですよ。それはなぜかという、脳の消費するエネルギー量っていうのが、とんでもない量を消費するわけで、その消費量、エネルギー量を普段食べている食べ

物だけからでは得られないんですね。そのエネルギー量を得られないから、結局脳が楽をするしかないんですよ。どんどん使わないもの、必要のないものは見せない。必要のないものは聞かせないとかね。とにかく、脳がエネルギーを使わない状態にしようとするんですね。

それは、自分を守るためですね。あまりにもエネルギーを使ってしまうと脳がパンクしてしまいますから、エネルギー不足に陥ってしまうわけですよ。なので、自分を守るためにそういうことをしているんです。例えば、自分が車を運転していて、ガソリンランプがついてしまったとすると、すぐにガソリンスタンドが目につくわけですよ。それはガソリンスタンドに集中し始めたからつくわけですよ。赤ちゃんの話をすると、自分の奥さんが妊娠したとなると、やはり妊婦さんが街中を歩いていると目につくようになる。それは妊婦さんっていう部分に自分が集中しているからですよ。

つまり、脳みそっていうものは自分が集中しているもの以外は見せない、聞かせないんですよ。そのような仕組み、構造を持っているわけです。これも有名な話ですけども、自分の腕時計を描いてもらうとかあるじゃないですか。自分の時計をイメージの中で描いてくださいって言ったところで、ほとんどの人が正確に描けないわけですよ。なぜかというと、時計というものは、時刻を教えるものっていうふうに脳は認識しているわけですから、毎日、腕時計をして、毎日見ているにもかかわらず、形には注目しない、形を覚えようとはしないんですよ。時計は時刻を見るもの、確認するものと脳が認識しているから、時計を見た時には時間しか見てないわけですよ。いざ時計を見て、自分の描いた絵と見比べてみてくださいって言うと、「あっ、こんなに違ったんだ」っていうふうに、みんな見るわけですよ。『じゃあ、一旦顔を上げてください』って言って、「今何時でしたか」って言うと、今度は時間を見ていないわけですよ。なぜかという、時計のデザインを見ているからですね。これがわかりやすい事例だと思うんですよ。

つまり、師と仰ぐ人であったりとか、指導者であったりとか、先生であったりとか、誰かに指示をする人間、自分が心を許すじゃないですけど、自分が師と仰ぐ人とか先生でもいいんですけども、そういう人たちの指示は聞くものだっていうふうに、脳が認識しているってことなんですよ。要は、時計を見たときに、その指示を仰ぐ人物から時計の形を見ろって言われたから、形を見たんですっていう話です。でも、時間を見てくださいって言われたら、時間を見るんですよ。つまり、それくらい脳っていうのは見たとしても見ていないんですよ。

その時点では、時計を見たわけですから、時計のデザインを見てくれと言われたとしても、長針と短針も見えているはずですよ。しかし、それが自分の脳には入ってないっていうことです。だから、見えているのに見えていないというのは、まさにそういうことなんですよ。だから、認識できるかどうかっていうのは、自分で意識的にそこを認識していいくしかないわけですよ。

先ほどの赤ちゃんの例で言うと、「泣いている赤ちゃんをあやすのは妻の仕事だ」という認識を持っている旦那さんの場合、赤ちゃんが泣いていても脳がそれを重要情報だと判断しないので聞こえないのです。自分の中ではそういう認識だから。なので、奥さんが「こんなに泣いているのに、なんで起きないの？」って言っても起きないですよ。なぜかという聞こえないからですね。

それは旦那さんのそもそもの認識を変えなきゃいけないですよ。旦那さんが泣いている赤ちゃんは一緒にあやすものだっていうふうに思って、そう認識している旦那さんは起きるんですよ。それは赤ちゃんの声が聞こえるからですね。

旦那さんが「自分は仕事をするのが役目だ。奥さんは子供を育てるのも役目だ」っていう認識をしているのであれば、赤ちゃんの泣き声は聞こえないので、起きないのは当たり前です。だから、脳がそもそも聞こうとしない、聞かないようにしているっていう現象があるというのは一つ覚えておいてほしいんですよ。

現実が変わらない本当の理由

それを改善するには、認識というものを自分で変えなきゃいけないわけですね。あとは、その上からの指示。その先生とか師とかと仰ぐ人間の言葉には気をつけなきゃいけないってことです。逆に言うと、その認識さえ変えてしまえば、いろんなものが目の前にあるっていうことに気づけるんですよ。「宝は常に目の前にある」っていうのは、常にあり、目の前にはあるんですけども、自分で認識していない、過去の記憶からの視野しか持っていないので見えていないということです。

「現実が変わりません」っていうのも、そうなんですよ。現実が変わらない理由は、過去から持ってきた視野、聴覚とかで、物事を見たり、聞いたりするからです。それだと同じものしか見えないし、同じものしか聞こえないってことなんですよ。

「The Great Luck」で、ひらがなの「わたし」で未来の一コマを置きましょうという話を書いていると思うんですけど、これはどういうことかっていうと、ひらがなの「わた

し」で未来の一コマを置いた瞬間に、過去の記憶の視野、聴覚とかでは見えないもの、聞こえないものが、見えてくる、聞こえてくるようになるんですよ。要は、過去の記憶では、そこに到達できないからですね。

自分で想像できる範囲に未来の一コマを置いてしまうと、そこまでの道筋を自分で考えてしまうんですね。その自分で考えている思考っていうのは、どこにあるかといったら、過去の記憶の思考なんですよ。過去の記憶の視野、聴覚で、物事を見たり、聞いたりしようとして、そこに到達しようとするから、現実が変わらないんですよ。

「未来の一コマ」を置くと、足元の宝が見え始める

そうではなく、未来の一コマを想像がつかないようなところに置くことによって、脳が勝手に視野、聴覚などを変えるんですよ。それで勝手に見えるもの、聞こえるものを変えるんですよ。だから、現実が変わるっていうことです。これが「The Great Luck」を脳の仕組みから解説した部分っていうところなんですよね。

この音声を収録する直前まで、昔からの私の会社の社長とNOONをしていたんですよ。本当に収録する30分前のことです。彼と話していた時に、「未来の一コマを置こうよ」という提案をしたんですね。それで話しているうちに、面白そうじゃんっていう感じで、その会社の事業としてポンと一コマを置いたんですね。置いた瞬間に、本当に灯台下暗しで、自分たちの足元にとつもない宝が落ちていた。眠っていたってことに気づいたんですよ。「どうして今までこれが見えなかったんだろうね」っていう感じで話したばかりですね。「なんでこんなにすごいものが今まで視界に入らなかったんだ」っていう会話をしていたんですよ。

これは未来の一コマを置いた瞬間に、その未来の一コマにたどり着くための視野を二人が手に入れたからこそ、その宝が見えたっていう話なんです。だから、その未来の一コマを置かなければ、それは未だに見えてないから、そのままどこかに消えていくっていう感じですよ。でも視野を手に入れて、見えてしまったから、その社長もすごくワクワク

しちゃって、「すぐ取りかかります」みたいな感じで、いま動いているんですけども、多分、今日はこの件に関してずっとやるんじゃないですかね。

それくらい面白いんですよ。未来の一コマをポンと置くだけで、視野が変わるっていうのは。これを自分で体験していくと、どんどん未来の一コマ置きたくなるので、そうすると、視野がどんどん変わっていくので、本当に目の前、周りが宝の山だっているのは、まさにそういうことなんです。見渡す限り、宝の山です。そこら中にあるんですけど、ただ見ていない、聞こえていないんですよ。ですが、こういう音声を聞いただけでも、そういうことが起きているんだっていう認識を持てるわけじゃないですか。なので、未来の一コマを置くことによって、視野が変わる。だから、未来の一コマが必要なんだっていうふうに認識ができるんですよ。そうすると、未来の一コマを置いた瞬間から、本当に見えなかったものが見えてきます。

客観視がもたらす心の平穏

本当にそういう部分なんです。今日は、パートナーさんの話からいろいろ話が飛躍しちゃっていますけども、そういうことなんです。だから、自分が相手に対して理解ができないっていうのは、脳がそういう仕組みだからっていうことを理解するだけでも、見え方がちょっと変わりませんか。

パートナーが子供が夜泣きをしているのに起きませんというのも、彼の認識の中では、「子育ては奥さんの仕事だ」っていう認識の持ち主なんだなっていうふうに客観的に捉えられるんですよ。だから、「なんで聞こえないの？」っていうのも、「聞こえてないんだな」っていう認識になるわけですよ。それだけでも見えている視野が違いますよね。そうすると、自分が新たに成長できて、視野という新たな資産を授かったということなんです。

本当に脳っていうのは、それくらい楽をする方向に向いていきます。エネルギーを使いたくないからどんどん使わないように、楽な方向に導いていくんですよ。だから、余計なものは見せないように、聞かせないように導いていくんですよ。だから、それを脱却するために、ひらがなの「わたし」で未来の一コマを置くっていうことをすることによって、また別の視野というものを手に入れることができますし、まさに今、私はグループ会社の社長と話して、リアルにさっきも起きたばっかりの話なので、本当に面白い体験がたくさんできると思いますので、この音声を聞いて何か気づきを得て、実行に移していただけたら嬉しいです。

では、今回の音声も以上となります。ありがとうございました。